

令和六年新春の挨拶

社会福祉法人 愛光会 理事長

和光学園施設長 指宿 章子

令和六年新春のお喜び申し上げます。利用者様、ご家族様、関係機関の皆様方におかれましては、法人運営に關しまして、多大なる、ご協力ご尽力を賜りまして誠に有難うございます。昨年同様、今年度も宜しくお願いいたします。

私は昨年六月に四代目理事長職を拝命し重責を担うことになりました。歴代理事長の輝かしい功績に対し足元にも及ばない、まだまだ経験不足、力量不足の若輩者であります。皆様から信頼される理事長職を目指し精一杯取り組んで参ります。今後の方針といたしましては愛光会の基本理念を基に愛光会の利用者様、ご家族様、職員の幸せと法人福祉事業の安定した事業継続運営、地域、利用者様、ご家族様から信頼され、必要とされる組織運営、そして社会福祉は、誰の為に何の為に有るのか原点を振り返りながら理事長職に努めて参りたいと考えています。昭和三十一年、愛光会開設から六十七年が経過し、児童養護施設・桜島学園、重度高齢対応支援施設・桜町学園、障害児者併設支援施設・和光学園、児童発達支援事業おひさまキッズ、就労対応障害者支援施設・フレンドリーホームいろいろま、障害福祉サービス事業・介護保険サービス事業総合サポートセンター、福祉総合相談支援センターあひ、介護保険サービス事業小規模多機能ホームあいわ等、児童から高齢者まで各利用者様のライフステージにお

いて必要な福祉サービスが必要な時に提供できるシステムが、あらかた構築され、今後は各事業所間の協力連携を図り支援内容充実と利用者様のニーズに迅速的確に応えられる福祉サービス提供に取り組みたいと考えております。

初代理事長は長い警察官勤務時代、戦後の混乱期もあり、多くの犯罪は幼児期児童期における生活環境に深い要因があると考え桜島に、児童養護施設桜島学園、精神薄弱児施設和光学園を設立しました。時を経た現在でも人生において一番重要な心身の発育成長の時期である幼児期に虐待事案が多発し、社会問題となっております。時代の変化により施設の果たす役割が変化する中、和光学園、桜島学園で虐待児を受け入れ安心して過ごせる環境を提供し、それぞれの人生に力強く羽ばたいていけるよう職員と共に支援に取り組んでいます。(私の願いは、第一に園児園生の健康管理の充実と安全管理の確立である。如何なる時にも、何をやるにも、この子らの健康と安全を念頭に計画を為さなければならぬ。飛躍した考えや計画を持って彼らに無理があつてはならない。)初代理事長の願いを踏襲しつつ、利用者様のニーズに柔軟に対応される愛光会の福祉サービス提供と相談役、職員の協力を得ながら四代目理事長としての職を全うして参ります。皆様方のご指導、ご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

桜島学園の取り組み

桜島学園 副施設長 野口 輝俊

謹んで新春のお祝いを申し上げます。昨年は大変お世話になりました。本年が皆様にとつて幸多き一年になりますことをご祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返り、当園が取り組んでいることを、いくつか紹介したいと思います。

まず、施設の小規模化、地域分散化です。当園は桜島の本園の他に、鹿児島市街地にあすなるホームとすみれホームを設置しています。二つのホームは地域の住宅街の中にある一軒家で、家庭により近い環境の中で、小規模ホーム(定員六名)を運営しています。

次に、子どもへの心地よい支援です。人間は幼少期に心地よい人間関係を経験すると、未来に向かって心地よさを保っていくと言われています。当園ではこの心地よさを職員との関わりの中で経験させ、継続していけるよう力を注いでいます。そのために子どもへの命令や指示、否定的な声掛けを、徹底的に排除する努力をしています。

三つ目に、私は権利擁護について、権利侵害から子どもを守るだけでは不十分だと思ふようになってきました。子どもは自分への支援について、自由に意見を述べる事が保証され、その意見が会議で反映されなければならぬ

い。今後は施設での会議の決定に、子ども自身が関与できるように、権利擁護のあり方を見直す時期がきていると思ひます。

四つ目に、当園では記念日を大切にしたいと考えています。誕生会は「生まれてきてくれてありがとう。」という考えで、子どもが生まれた日に、子どもが好きなケーキとプレゼントを準備し、ホームで祝います。また子どもが入所した日は「来てくれてありがとう。待つていたよ。」とウエルカムパーティーを行い歓迎するなど、記念日が心に残るように支援しています。

最後に職員の業務では、情報の共有が大きな課題です。会議や朝会等にはZOOMを、職員への周知事項にはLINEを、フルに活用しています。今や情報の共有は、オンラインなしに成り立たない状況です。

これらの取り組みは特筆することではなく、当たり前のことなのかもしれません。しかし、子ども・職員の意見を反映させてきたものです。今後子ども・職員の意見を大切にしたい施設運営を心がけたいと思ひます。

本年も、皆様のご支援ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

新年を迎えて

和光学園 副施設長 日高 龍一郎

明けましておめでとうございます。昨年は五月八日に新型コロナウイルスが五類感染症に移行し、以前の日常・社会生活が再開されると期待していましたが、当事業所においては七月に多数の新型コロナウイルスの感染者が発生し、またインフルエンザの感染症等も流行するなど、依然として感染症対策に追われる日々となりました。

このような中、利用者様はじめご家族、関係者の皆様におかれましてはご心配やご迷惑をおかけした一方で、ご理解とご協力をいただき、こうして新年を迎えることができましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、当事業所は施設入所サービスをはじめ短期入所事業や日中一時支援事業、そして児童相談所から児童の一時保護委託を実施しておりますが、昨年は一時保護委託件数が例年になく増加しており、それに伴う施設入所される児童も増え、障害児入所施設の入所利用者数が昨年十一月の時点で定員の二十名に達しました。これ以上の一時保護児童の受入ができなくなった以降も児童相談所からの問い合わせ等は後を絶たず、地域では在宅の福祉サービスを利用される方々の他に、虐待等で困っている児童やその家族が数多く存在して

いることを改めて知る機会となりました。

このような状況や一時保護児童の受入に伴う入所利用者様との共同生活において浮かび上がってきた課題等を踏まえ、当事業所では今後一時保護児童の専用施設の設置を計画しており、令和七年度初頭の開設に向けて本年はその準備に取りかかる次第であります。私たちは入所されている利用者様は

勿論のこと、在宅で生活されている障害児、障害者の方々や児童に対しても、この地域における入所施設としての機能を明確にし、その役割を果たしていなくてはなりません。今年度は三年に一度行われる障害福祉サービスの報酬改定・制度改正が控えています。また昨年より発足したことも家庭庁における政策支援、社会基盤の整備への対応も引き続き行わなければなりません。

基準や報酬の変化に対応し、また国や県、市町村が障害福祉に関して何を課題とし何を求めているかを理解しながら利用者様のニーズに合った事業運営を行っていく一方で、私たち職員は利用者様を受け入れるにあたり、より専門的な知識や技術を持ち誠心誠意対応したいと考えております。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

新年のご挨拶

桜町学園 副施設長 鶴ヶ崎 貴洋

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は多くのお力添えをいただき誠にありがとうございました。

さて、昨年は私が楽しみにしていたスポーツイベント「燃ゆる感動がごしま大会」がコロナ禍による延期で、特別国民体育大会として本県で五十一年ぶりに開催されました。公開競技やデモンストラ

ション競技などを含め七十九競技が、県内四十三市町村全てでいずれかの競技が実施され、総合成績では全体の二位という素晴らしい結果を残されました。さすがに全ての競技を観戦はできませんでしたが、鹿屋市内外の競技を観戦しながら楽しくもあり、久しぶりに興奮し胸が熱くなる思いでした。

このようにスポーツを観戦していると興奮や感動を覚えると同時に、この方（選手）が活躍するまでにはどのような過程を過ごし、競技に対してどのような考えで取り組んで来たかを知りたくもなります。なぜ知りたくなるかと申しますと、この方の背景や考えを知ること、自分自身の人生や仕事において何か参考であったり、プラスの考えであったり、まねできるもの、今

すぐ取り組めるもの等々、さまざまな方向に少しでもつながるのではないかなる思いが出てきます。私はスポーツ競技者ではありませんし目指すものも違いますが、前向きに取り組む姿勢や考える姿勢を大切にしながら実行に移し、さまざまな事柄に対する結果をしつかりと残せられるよう取り組んでいきたいと思えます。

最後になりますが、令和五年四月の異動により桜町学園副施設長職を拝命いたしました。利用者の皆様に耳を傾け寄り添い、より良いサービスを提供できるよう鋭意努力していく所存でございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。



初心を忘れず未来も見据えて

フレンドリーホームいぐま 副施設長 尾迫 守

明けましておめでとうございます。令和五年四月より、副施設長兼サービスマネジメントとなり九ヶ月が過ぎました。支援員とは違う仕事内容に、日々悪戦苦闘しております。

振り返れば、入職時は二十代だった私も気がつけば五十代。ご指導いただいた先輩方の当時の年齢を追い越してしまいました。授産施設として開設された当時は、高牧農場で養牛、木工、陶芸を行っていました。私は利用者様と一緒に、様々な経験をさせて頂きました。木工も養牛も経験は全く無く、利用者様にも教えてもらいながら日々悪戦苦闘していたことを懐かしく思い出します。慣れない宿直の日は、薬の準備をしながら間違いは無いか、あるいは体調不良の方はいないか、不穏な方はいないかと絶えず緊張していたものでした。

新たな職に就き初心を思い出そうとしましたが、思い出すことさえ難しいくらい年月が経っていることにハッとします。世間では、車の自動運転からITの活用、働き方、SNS活用等、日々新しい技術や文化が更新されています。年齢を重ねた今、テレビや

ネット等で見聞きすることは自分には関係無いと思いがちですが、まさしく自分もその中にいるということを忘れずに、見聞を広げて取り入れることを意識しなければ時代に置いていかれます。

初心を忘れずに、利用者様ファーストの気持ちをお大切に、ライフステージに沿った姿を描きながら、個別支援を立案し実施していかねければならないと思っております。同時に、新しい技術や文化の活用等もこれからのテーマであると考えております。

目まぐるしく変わる世間に置いていかれないよう、利用者様と職員が安心安全に過ごせる「いぐま」であるためにも、微力ながら尽力したいと思っております。また、自分自身の未来も見据え、人生を謳歌することも忘れなようにしたいと思います。

(このような文章を書く機会をいただくなんて、自分も歳を重ねたなあ)と、しみじみと実感しながら新年を迎えました。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

新年のご挨拶

総合サポートセンターラン 副施設長 福丸 義弥

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新しい年をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、当事業所への格別なご理解とご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。本年も一層のサービスマネジメント向上を目指し誠意努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

私事でございますが、この度の辞令により、令和五年四月一日付で当事業所の副施設長兼サービスマネジメントを拝命いたしました。至らない面が多く、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、公共財団法人介護労働安定センターが実施した「令和四年度介護労働実態調査」では、介護サービスを提供する事業所が、人手不足を感じる割合を調査した結果を公表しました。

この調査結果によると、事業所が人手不足を感じている割合は、二〇一八年が六七・二%、二〇二〇年には六〇・八%まで下がったものの、二〇二二年に六六・三%と再び増えて

職種別では、特に人材不足を実感している割合が多いのが「訪問介護員」となっており、二〇二二年は八三・五%もの高い割合の方が人材不足だと感じている結果となりました。

また同調査で、現場で働く従業員が抱える労働条件や仕事の悩みについては、「人手が足りない」と回答した方が最も多く、全体の五二・一%でした。

続いて、「仕事の割に賃金が安い」が全体の四一・四%だったため、現場では賃金の安さよりも人手不足に悩みを抱く方が多いことが分かる結果でした。

人手不足の原因は、少子高齢化の他にも介護・福祉の仕事のマイナスイメージによって介護業界を避ける傾向にあることも要因の一つと言えます。

「二〇二五年問題」としても取り上げられているように、二〇二五年には六十五歳以上の人口が三、六七七万人に達する見通しです。

さらに、二〇六五年には国民の約二・六人に一人が六十五歳以上になるとみられており、高齢化社会は今後ますます加速していくと予想されます。

新年のご挨拶

福祉総合相談支援センターあい 副管理者 垣内 貞俊

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新春を清々しいお気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は多くのお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

福祉総合相談支援センターあい副管理者を拝命し一年が経とうとしており、時の流れの速さに驚いております。新型コロナウイルスにおきましても発生から早五年が経過し、昨年五月より五類に変更になりました。その間にライフスタイルの変化やリモートワークの発展等、様々な面で変化が生じましたが、生活様式も徐々に普段と変わりになくなっておりました。それに伴い福祉サービスに付きましても通常のサービスへと移行しておりますが、昨年はインフルエンザも一年を通して流行しており、感染予防対策を十分に果たして支援をさせていただいておりますので、ご不便をお掛けしたこともあるとは思いますがご容赦の程よろしくお願いたします。

福祉施策におきましても、昨年は子ども家庭庁の設立や精神保健福祉法改正の一部施行等がありました。来年度

におきまして障害者総合支援法や児童福祉法改正、報酬改定等が控えており、常に情報収集や改正内容の確認等を行っているところであります。福祉総合相談支援センターあいでは各種、障がい福祉サービスや介護保険サービスのご提案や調整の他にも子育て、生活、教育面等幅広いご相談を承ることが多くありますので誤りのない説明や対応をさせていただけるよう切磋琢磨していくと共に、各専門機関へご案内等や関係機関と連携が図れる関係性の構築、ご家族、利用者様と人生を歩める伴走者のような支援が行っていければと考えております。

福祉総合相談支援センターあい職員一同、今後とも福祉サービスの質の向上と、ご家族、利用者様に寄り添った支援が行えるよう努めて参りますので、皆様のより一層のご支援の程賜りますようお願い申し上げます。



理想を現実に

小規模多機能ホームあいわ 管理者 本白水 千奈美

明けましておめでとうございます。小規模多機能ホームあいわは、皆様の温かいご支援、ご協力を賜り、昨年十月に三周年を迎えることができました。三周年を迎え、法人内での人事異動もあり、この度、小規模多機能ホームあいわの管理者を務めさせていただきますことになりました。スタッフの体制も一部変更し、決意を新たにチーム一丸となり精進して参りますので、今後ご指導、ご協力をいただきますよう宜しくお願いいたします。

私は平成二十八年十月、障害者支援施設桜町学園に採用していただきました。家庭と仕事の両立を心配しながらの勤めでしたが、職場の環境は家庭を優先に考えられ、安心して仕事にも打ち込める環境にとても感謝しておりました。また、利用者様の笑顔がとても素敵で、何気ない一瞬の喜びを一緒に感じながら過ごす時間がとても嬉しく、何か励まされているようにも感じることでした。令和二年十月より小規模多機能ホームあいわにて、高齢者介護に携わる機会をいただき現在に至りますが、「その人らしさを大切に、最大限のサポートを行っていく」という

ことでは障害者支援も高齢者介護も何の変わりもないということを実感しております。小規模多機能ホームは、まだまだ馴染みのない施設かもしれませんが、「高齢者が住み慣れた自宅で安心して生活を続けることができる」「通い・宿泊・訪問を必要に応じて自由に組み合わせることができる」「どのサービスを使っても顔馴染みの職員が対応できる」といった在宅生活を全面的にサポートさせていただくサービスの内容は多様です。あいわは今後も、利用者様自身の想いに寄り添ったケアを常に意識し、安心して生活ができる環境作りを努めて参ります。管理者としては力不足ではございますが、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



各施設新職員の紹介



- ①好きなこと
- ②幸せを感じる時は？



総合サポートセンター
ラン
生活支援員
倉ヶ崎 真弥

- ① 筋トレをする
- ② 楽しくお酒を飲んでる時



小規模多機能ホーム
あいわ
非常勤看護師兼
介護従業者
永田 ちなみ

- ① 美味しい物をみんなで食べる
- ② 子どもが頑張ってる姿を見てる時



小規模多機能ホームあいわ
看護師兼介護従業者
谷川 加那

- ① 子どもや友達とおいしい物を食べに行く
- ② 家事が一段落してゆつくり昼寝ができる時



小規模多機能ホームあいわ
看護師兼介護従業者
匹田 晃太

- ① 釣り
- ② 食べて寝る

寄贈・ボランティア一覧 (R5.7.1~R5.11.30) ※順不同

桜島学園

- 東桜島地区民生委員児童委員協議会 様
- 東桜島地域校区社会福祉協議会 様
- 株式会社自習ノート 様
- 九州アイスクリーム協会 様
- 九州納豆組合 様
- 日本中国料理協会 様
- 有限会社肉の大野屋 様
- 株式会社フレーベル館 様
- 株式会社ユーコーホールディングス
ユーコーラッキー新屋敷店 様
- 株式会社鹿大丸 様
- 内田 芳樹 様
- 杉木 和子 様
- 堂園 哲也 様
- 竹之下 次雄 様
- 亀岡 浩一 様
- 地頭 忠輝 様
- 門司 一徹 様
- 帖地 近行 様
- 新宮領 幸一 様
- 森満 郁弥 様
- 加治佐 スミ子 様
- 山田 佳和 様
- 喜多條 芳諭 様
- 喜多條 由紀子 様
- 井之口 巧 様
- 浜田 実 様
- 江藤 美和 様
- 大徳 明日香 様
- 馬庭 利吉 様

たくさんのご寄贈をいただきました。心から感謝いたします。



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご健勝にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

愛光会だより第一一四号が出来るようになりましたのでお届けいたします。新型コロナウイルス感染症が今年度五月より五類感染症に引き下げられました。未だ新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症が猛威を振るっている状況です。ウィズコロナの生活に慣れてきた今だからこそ気を抜かずに感染症対策を講じて参りたいと思います。

まだまだ新型コロナウイルス感染症が流行する前の生活には戻れてはいませんが愛光会役職員一同、利用者様が毎日元気で安心して過ごしていただけるよう努めて参りたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

編集員一同